

令和6年度 がん教育授業の実践研修会実践報告書

千葉県立安房高等学校
教諭 塙 博 行

1 はじめに

現代社会においてがんは、日本人の死因第1位となっており、年間約40万人が、がんで亡くなっている。また、日本人で生涯のうちにがんに罹るのは、男性65.0%、女性50.2%と言われているが、まさに日本人の2人に1人ががんになるという状況である。がんについての関心が高まっているのは言うまでもなく、学校における健康教育においてがん教育を推進することは健康教育を推進する上で非常に意義のあることと考える。現行の学習指導要領から、保健に「がん」に関する単元が追加され、がんについて正しく理解し、自他の健康と命の大切さについて学び、ともに生きる社会づくりのために必要な資質や能力の育成が必要とされている。各学校はがん教育についての教材研究などが求められている。また、教員の授業だけでなく、外部講師を用いたがん教育の授業を実践することで、より詳細な内容を学ぶことにより、がんについての正しい理解につながると考える。さらに、がん教育における外部講師活用の意義についての理解が深まるとともに、校内での外部講師を活用したがん教育の推進が図られていくと推測させる。

2 本校の概要と特徴

安房高校は明治34(1901)年、旧制中学校として開校以来、「質実剛健」「文武両道」の校訓のもと120余年の歴史を紡いできた伝統ある学校である。途中、安房第一高等学校への改称や女子教育の名門、安房南高等学校との統合などを経て今日に至り、輩出した卒業生は5万人を超え、様々な分野でリーダーとして活躍している。

本校は、スクール・ポリシーである「知的好奇心をもち、主体的に学び、考え、行動する生徒」を育成すべく、様々な取組を行っている。その一つの取り組みが、令和5年度入学生からスタートした「安房高ルネッサンスプロジェクト」である。このプロジェクトは、最難関国立大学・学部への合格を目指した「特別進学クラス」の設置や、塾や企業等と連携した教育の機会を通して、高い志を持つ子供たちの進路実現に資することを目的としている。南房総地域は、全国的に見ても少子高齢化と過疎化が進み、若年人口の流出が課題になっていて、20年ほど前に6校あった公立高校は現在4校となり、中学校や小学校の統廃合も進んでいる。地域に残る子供たちの中には、よりよい教育機会を求めて、県北の高校に流出する傾向も見受けられる。こうした逆境の中、安房高の更なる発展を目指し、「安房高校だからこそ」「安房高生だからこそ」できることを常に考え実践している。

本校は、千葉県教育委員会から進学指導重点校に指定されており、最高学府を目指す生徒も多い。部活動においては、インターハイや関東大会出場、全国高等学校総合文化祭への出場が決定するなど、多くの部が好成績を残している。本校に寄せられている地域の負託に応えるべく、これまでの先輩が築いてきた伝統に加え、今を生きる在校生の新たな挑戦を応援しながら、「安房の子は安房で育てる」という気持ちでいる。安房高校は「輝く自分に出会う場所」。全ての子どもたちの夢の実現に向けて、邁進している。

3 学校の取り組み

(1) 生徒の基本的な学力の定着のために

- ・ 定期的な小テスト
- ・ 基礎・基本を大切にした授業展開
- ・ 習熟度別授業、少人数授業、T Tの実施
- ・ 職員相互の研究授業、研究協議会の実施（授業力向上のための職員研修の実施）

(2) 難関大学突破のための様々な取り組み（ルネッサンスプロジェクト）

- ・ 特別進学クラスの設置
- ・ 将来を見据えた都内企業見学（資生堂、ソフトバンク、コクヨ等）
- ・ 意識改革のための合宿
- ・ 学ぶ心に火をつける京大生の授業 等々

(3) がん教育の授業実践について

本校には、がんに罹患した生徒や罹患している家族がいるという生徒が複数名いるため、言葉を選びながらの授業展開になるが、がんも含めて、早期発見・早期治療の大切さ、普段からの健康への意識、気付きの大切さ、周囲の協力や理解の必要性に重きを置いて授業に取り組んでいる。今回の授業実践では、医療者の立場からがんのことについて講演をしていただくことで、あらためて「がんへの正しい理解」、「心のケアの必要性」、「がん予防のために自分たちにできること」など、がんについての理解がより深まると考えている。

4 展開授業

(1) 単元名 現代社会と健康 「がんの原因と予防」「がんの治療と回復」

(2) 日 時 令和6年10月24日（木） 2限

(3) 授業者 亀田ファミリークリニック館山の医師と看護師

(4) 本時の目標

- ・ がんの発生機序や疫学などについて理解する。
- ・ がんの主な治療法や緩和ケアについて理解する。
- ・ がん検診の必要性や診断と治療・予後について理解する。
- ・ がん予防のための生活習慣やワクチンの必要性を理解する。
- ・ がんの生活への影響と共に生きていくということを理解する。
- ・ 様々な情報サービスを正確に受け取り、判断する重要性を理解する。
- ・ 社会的な取り組みや対策についての学習に主体的に考える。

(5) 教材観

がんについては、現行の学習指導要領の一つの単元として取り扱われるようになった。現代社会における成人の死因の第1位を占める疾患として、がんという疾患の正しい理解が必要とされている。また、医療の進歩により「治る病気」に変化してきたことから、単純に「がん」＝「死」という恐怖的な印象で終わらず、自身の健康の保持増進のためにも予防法や社会制度も含めて正しく学ぶ機会としたい。

(6) 対象クラス 1年次生徒 236名

(7) 生徒観

1年次生徒は、落ち着きがあり学習意欲も高く、何事にも一生懸命に取り組む姿勢がある。自身の健康や家族の健康についても関心を持ち、授業を受ける態度も積極的である。また、相手の気持ちを察する優しさをもつ生徒が多くいる。

(8) 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解している。 ・がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解している。 ・生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・がんなどの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・がんや生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ・がんなどの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・がんとその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ・がん検診や情報サービスの整備などの社会的な対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

(9) 単元計画

	学習項目	主な学習内容・学習活動	評価の材料
1 時間目	健康の考え方と成り立ち	様々な健康の考え方について理解する。 健康を成り立たせている要因について理解する。	ワークシート 意見発表など
2 時間目	私たちの健康の姿	我が国の健康水準の変化とその背景について理解する。 我が国の現在の健康問題について理解する。	ワークシート 意見発表など
3 時間目	生活習慣病の予防と回復	生活習慣病の種類と要因について理解する。 生活習慣病の一次予防、二次予防について理解する。	ワークシート 意見発表など
4 時間目	がんの原因と予防	がんの種類や要因について理解する。 がんの一次予防と二次予防について理解する。	ワークシート 意見発表など
5 時間目	がんの原因と予防 がんの治療と回復 (本時)	がんの発生機序や疫学などについて理解する。 がん検診の必要性や診断と治療・予後について理解する。 がん予防のための生活習慣やワクチンの必要性を理解する。 がんの生活への影響と共に生きていくということを理解する。	プリント等

(10) 本時 (5 / 5)

【目標】

- ・がんの発生機序や検診の必要性、治療・予防について理解することができる。
(知識及び技能)
- ・がんの予防と回復について、習得した知識を基に、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な取組や社会的な対策を整理しようとする。(思考力、判断力、表現力等)

(11) 授業場所 体育館

(12) 本時の展開

段階	学習内容と活動	教師の指導・支援
導入 5分	<p>1. 講師を紹介する。 【亀田ファミリークリニック館山】 医師4名 看護師1名 計5名</p> <p>2. 本時の授業の内容を確認する。 演題「医療者から見たがんのことをお伝えします」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【学習内容】</p><ul style="list-style-type: none">①がんの発生機序や疫学②がん検診の必要性や診断と治療・予後③がん予防のための生活習慣やワクチンの必要性④がんの生活への影響と共に生きていくということ</div>	<ul style="list-style-type: none">○本時は外部講師の方とがんについて学習することを知らせ、外部講師を招いてのがん教育の意義を伝える。○事後のアンケートに協力してもらうことも伝える。○講演中にがんについて考えることが困難な時は退館してもよいことを伝える。また周りの先生に伝えたり、頼るといった配慮をする。○メモなどを取るよう指示する。○生徒の実態を把握し、個別に配慮する。
展開 35分	<p>講演開始</p> <p>3. がんとは何か</p> <ul style="list-style-type: none">・がんの一般的知識（発生機序、疫学など）について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none">・細胞の変異が起き、異常な細胞が増えていくこと。・早期発見、早期治療、がん検診の重要性を理解する。 →早期発見による5年後の生存率は高い。・がん検診を定期的に行うことの重要を理解する。・原因不明のがんもあることを理解する。</div>	<ul style="list-style-type: none">○がんは特別な疾患・病気ではないため、自分や家族、また身近な人がかかる可能性はある。正しい知識をもたせるよう留意する。○日々の生活習慣の改善ががん予防につながることに理解する。○がんは早期発見、早期治療により治すことのできる病気であることに気付かせる。

	<p>4. がんに関わる医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの検診・診断と治療・予後について ・予防（生活習慣、ワクチンなど）について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診を定期的に行うことの重要性を理解する。 ・原因不明のがんもあることを理解する。 ・生活習慣の改善についても理解する。 ・がんワクチンの仕組みなどを理解する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○がんは必ずしも生活習慣や細菌、ウイルスが原因で発症する、というわけではないことを伝える。 ○日々の生活習慣の改善ががん予防につながることに理解する。
	<p>5. がんになったら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんと生活への影響について ・がんと共に生きていくということ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診を定期的に行うことの重要性を理解する。 ・がんは身近な疾患であること、そして治らない病ではないことを理解する。 ・医療者から見たがんについての話から、患者さんの視点になってさまざまな感情や葛藤があることを理解する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが今からでもできることや身近な方がかかった場合にできそうなことについて考えさせる。
<p>まとめ 5分</p>	<p>6. 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの予防には、個人の取り組みに加えて、がん検診などの社会的な対策が必要であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○質疑応答の際、質問しやすい雰囲気を作るよう配慮する。 ◎緩和ケアやがんと共生の取り組みについて理解したことを言ったり、書いたりすることができる。 ○事後のアンケートに協力してもらうことを伝える。 ○何も書けていない生徒には個別に声をかける。

(13) 成果と課題

【成果】

- ① 実際に医師の方の話聞くことで、がんについての理解を深めることができた。
- ② 身近にがん患者がいる生徒といない生徒ではがんに対する興味・関心・考え方が異なるが、芸能人等の話題を用いることで身近に感じることができたと考える。
- ③ がん検査を行うことも大切だが、検査を行ったことで合併症を招くこともあると聞き、検査すればいいという問題ではないと学ぶことができた。
- ④ 外部講師の話は、「わかりやすかった」「やはり説得力がある」「興味・関心が高まった」などの意見が得られた。
- ⑤ 本校の生徒の中には、「がん」という病気は、なったらほとんどの人が死んでしまうのではないかと、理解不足の生徒もいたが、今回の授業を通して、検診を受けることにより早期発見・早期治療することで治る可能性が高まるということ等、専門家からの説明でより深く知識を深め理解することができたことは大きい。
- ⑥ 教員にとっても勉強になることが多く、よりがんへの理解が深まったと感じる。
- ⑦ がん検診やワクチン接種の重要性などの話を聞くことで、がんを予防するための社

会的な取り組みの視点も持たせることができた。

【課題】

- ① 死因の第1位であるが、やはり自分事として考えさせることが難しい。
- ② 身近にがんになっている人がいると想定して授業を行わなくてはならないが、身近にがんになった人がいる時の声かけの仕方などが課題だと感じた。
- ③ 外部講師との連携や調整に時間を要することはもちろんだが、担当される先生によっては資料作成や話す内容のまとめ等で多くの時間を費やし、業務に負担をかけてしまったのではないかと感じている。
- ④ こういう機会を設けていただいて感謝しているとお言葉をいただいたが、対面での打ち合わせや多くのメール等のやり取り等、細かい流れの確認で多くの時間を費やす結果となった。
- ⑤ 生徒の実態を把握している教員が、生徒に何を学ばせたいのか、そのために外部講師にどんな話をしてもらいたいのかを気軽に伝え合い、お互いの良さを生かしながら授業を行えるかが大切であると考えます。
- ⑥ クラス単独ではなく学年全体での授業の場合、1時間ではなく、2時間程度が必要になるのではないかと感じた。

(14) 授業後の生徒の感想（一部抜粋）

【アンケート内容】

- ① がんに対しての知識が深まったか(203人中)
《より深まった》 107人 53%
《深まった》 96人 47%
《深まらなかった》 0人
- ② がんの検診・診断、治療・予防について理解できたか
《より理解できた》 104人 51%
《理解できた》 99人 49%
《理解できなかった》 0人
- ③ がんについての講習を聞いて、自分の考えに変化はありましたか
《あった》 178人 87%
《なかった》 25人 13%

【感想】

- ◆ 誰もががんになる可能性はあるから、自分には関係ないと思わずに調べようと思うようになった。
- ◆ 癌は何かの腫瘍なのかなと思っていただけで体の細胞に異変が起きてできることに驚

きました。どんな対処をするかは、その場にならないとわからないけど自分ができることは小さなことだけれどたくさんあることが分かりました。

- ◆ がんは感染によって発症することもあるということ。女性は緩やかに発症率が上昇するが、男性の場合一気に発症率が上昇するということが分かった。
- ◆ 知識としては2人に1人になることは知っていたけど3人に1人が亡くなってしまうのはやっぱり怖いなって思います！生涯楽しく生きるためにも食生活などには気をつけたいし患者さんの接し方とかもお互いの気遣いがすごく難しいですが相手に合わせた行動を心がけたいです！
- ◆ タバコは肺がんのみを誘発するのかと思っていたが、それ以外にも、食道がんや口腔がんなどたくさんのガンを誘発することを知って本当にタバコは良くないのだなと思った。
- ◆ 遺伝だけではなく、ウイルスなどでもなってしまうことがわかりました。定期的ながん検診が大切なことを知った。
- ◆ がんを治すために必要なことや、誰にでもなってしまう可能性があることを知った。自分はならなくても、家族がなってしまったときの対応なども知ることが出来た。
- ◆ タバコ以外の生活習慣を正してもタバコによる発症のリスクが大きすぎて霞んでいたので、まずはタバコを吸わないことががん予防の第1歩なのだなと感じた。成人して吸えるようになったとしても吸うかどうかはまだ考えている。
- ◆ 早期がんであれば9割の人が治ることがわかった。適度に運動することや、正しい食生活などをしてがんにならないように気をつけたい。また、今普通に生活できていることのありがたさを感じた。
- ◆ 前より話を聞いて当事者意識を持つことが出来た。
- ◆ がんになる人の割合やなった器官別の死亡率など具体的な数字を知ることができた。
- ◆ がんに対処するには事前の診断による早期発見ができたらいいとわかった。ワクチンや自分でできる生活習慣の見直しも良いと改めて理解した。
- ◆ まずは早期発見、早期治療が大切だと言うこと、そして生活習慣を整えることもがんの予防につながると聞き、驚きました。
- ◆ 私は子宮頸がんのワクチンをまだ打ってないので打つことで防げる可能性が上がることもあるとわかった。
- ◆ 保険料の高い保険に入ってガンになったあとのリスクを減らすよりも、定期検診と健康的な生活習慣を心がけてそもそもの発症リスクを減らす方がよっぽど賢い保険だと理解した。
- ◆ 早期発見をすれば5年後に生きている可能性がとても高いことがわかりました。
- ◆ 癌のステージによって治療方法が変わってくるということがわかった。家族や親戚ががんになった時はいつも通りに接して、少しでもいつもの日常を感じられる時間になったら良いなと思った。
- ◆ がんの種類にも生存率が関わってくることに改めて気付かされました。こんなにも変化があるのが衝撃でした。
- ◆ I 期に発見できれば90%以上助かり、自覚症状が出た時の IV 期は15%以下で助からないということがわかりました。
- ◆ ガンの治療法にはガンになってしまった本人だけでなく、その家族も一緒になって治療していく事が大事だとわかった。
- ◆ HPVワクチンは打つべきだと思った。それにより、子宮頸がんの発症リスクを約70から90パーセントも減らせる。
- ◆ がん患者との接し方で、自分はいつもと違い優しく声をかけたり、元気をつけたりするような声掛けをした方がいいと思っていたが、いつも通り接してやるのの方がいいと知って自分の考えを改めなければと思った。
- ◆ 「自分は絶対にならないから大丈夫」と思うのは間違いで、誰でもなり得る病気だから

ら、検診をしっかり受けることが大切である。

- ◆ 生活習慣を整えることは、日頃よく耳にする様々な病気だけでなく、がんも予防できると知り、生活習慣の重要性を痛感し、さらに気を付けて生活しようと思いました。
- ◆ がんになったら患者さんは本人だけでなく家族も第2の患者さんなのだ知った。体だけでなく、心のサポートも大切だと知れた。
- ◆ 私のおばあちゃんが膵臓癌にかかってしまっただけで対応がいつも通りじゃなくて優しくしてしまっただけで、これからはいつも通り接したいと思った。
- ◆ がんは死が付きまとう病気という意識しかなかったが、早期発見により死の確率は低くなると知れ、意外と身近な病気であると考えようになった。
- ◆ 家族にがんになった人がいないから、自分ががんになるかもという考えたことがなかったけど、授業を聞いて、がんの存在が身近に感じて、予防や早期発見のために行動したいと思った。
- ◆ 家族に定期的ながん検診を呼び掛けて大切な人をがんから守ろうと思った。
- ◆ 様々なサポートがあるとわかったので、もし患ったとしても怖くないなと思った。薬の副作用など、少し怖いこともあるが、一人で抱え込まなくても良いのだと思った。
- ◆ とても印象に残ったのは、「がん患者の思い」です。私の友人ががんになってしまったら、やはり悲しいし精神的にも不安定になってしまうと思いますが、そのことよりもがんについて深く知り、もしものことがあってもサポートできるような環境を作るのが大事だと思いました。
- ◆ 家はがん家系なのでかかったら治らないものだと思っていたけど、早期発見で9割が治ることをして、自覚症状がなくても、がん検診をしようと思った。

(15) 授業後の参加職員の感想（一部抜粋）

- ◆ 専門家からの説明はとても良かった。とても分かり易かった。
- ◆ 家庭での喫煙率が高く、生徒に受動喫煙の防ぎ方とか、そんな授業をしている。
- ◆ 今からやらなければならないこと、今後のことを考えるようになった。
- ◆ がんについて知る、生活習慣を見直すきっかけになったのではないかと感じた。
- ◆ 今後、親元を離れての食生活などを考えるきっかけになればと思う。
- ◆ こういう機会を学校で設けて職員と共有できたらいい。
- ◆ がん＝マイナスのイメージだったが、もっと学びたい、学ばせたい、やってみたいと思った。
- ◆ 検診の情報がもっとあっても良かった。
- ◆ 医療関係はパートナーという言葉を選択。性教育にしてもがん教育にしても「いろんな生徒がいる」ことを前提に話す。言葉を選びながらの授業になる。
- ◆ 妹ががんで亡くなった。しかし、見舞いはしなかった。私以外の家族に『お兄ちゃんが見舞いに来たら、それこそヤバイよね』と漏らしていたと聞いて、病院の駐車場までは行くが、病室までは行かなかった。そんな向き合い方もあると、授業で話したりする。
- ◆ がんに対する不安な生徒への対応とか健康教育は難しい。
- ◆ ワクチンの副作用についての質問

ないとは言えない。以前、副作用で車いす使用になったというような話もあったが、大きな副作用とワクチンの因果関係は認められないとの研究もある。がん検査を行うことも大切だが、検査を行ったことで合併症を招くこともある。

- ◆ すい臓がんがとても怖い。早期発見できる検査はあるか？という質問
- ◆ すい臓がんについては、あまりない。酒やたばこを控えてください。
- ◆ お勧めする検査とか、お勧めしない検査とかがある。検査をしなければ発症しなか

った…というような事例もある。

- ◆ 情報は変わる。だからこそ、その情報を選択できる人、判断できる人でないといけない。
- ◆ 知るということによって心構えができたり、自分の事として捉えることができるのではないか。
- ◆ 学校では保健や家庭科で教える内容が普段の生活にそっているのも、とても大事だと思う。
- ◆ 様々な情報を自分でとりにいく、正確性、調べる、知識として大事。
- ◆ 正しく理解することで、生き方や接し方が変わったり、いじめや差別がなくなる。正しく理解させることの大切さをあらためて感じた。